

科目名	体育科指導法					開講 キャンパス	神園
担当者	松本大輔						
開講年次	3	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	選択
授業の概要 及びねらい	<p>体育授業を行う上での基礎となる理論に裏付けられた実践を行いながら、自ら課題を持ち教師としての力量を向上し続け、学び続ける資質と能力を向上させるように本授業は構成されている。その為、本授業は「知る（知識を学ぶ）・活用する（授業づくりに活かす）・探究する（授業実践と省察）」という三つから構成されている。これらを通して、体育授業における基礎理論についての知識を学び、授業づくりへの基盤を構築していく。なお講義の内容に関しては学習指導要領に示された内容との関連で行っていく。</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 体育の基礎理論を学び、教育としての体育の独自性を理解することで授業づくりの基盤を確立することができる。 2) 各運動種目の機能的特性・構造的特性・効果的特性を理解する。 3) 児童の実態（体力・技能、学び方等）に応じた各運動種目の学習指導方法を知る。 4) 授業実践上の教師としての構えを身につけ、教材研究を通しカリキュラム論的な視点をもった授業づくりができる。 5) 児童の実態に即した体育科学習指導案を作成することができる。 6) 体育の授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。 7) 児童の実態に即した学習資料を作成できる。 8) 授業観察の方法を理解する。 9) 自分たちが計画・実践した授業の目標・方法について説明することができる。 10) 模擬授業を行い、自らの実践を省察することができる。 11) 体育と社会、地域スポーツとの関連について理解し、自らの教師像について考えることができる。 						
学習方法	講義・演習・グループワーク（教材研究・模擬授業）：講義はパワーポイントを用いて行う。						
テキスト及び参考書等	小学校学習指導要領解説 体育編（文部科学省）・学び手の視点から創る小学校の体育授業（鈴木直樹ら）・その他の参考書は授業中に適宜紹介する。また必要な資料はプリント配布する。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	○	◎				10	
宿題・授業外レポート	◎	◎		○		40	
授業態度		○	◎			5	
受講者の発表							
授業への参加度		◎	○	○		10	
その他	◎	◎	○	○		35	
合計	教材研究・指導案作成ならびに模擬授業と授業の省察					100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	「オリエンテーション」：体育科教育の考え方について理解する。						
第2週	「学習指導要領の変遷と体育科の目的・目標」：体育の目的・目標の変遷を知り、授業の方向性について理解する。						
第3週	「体育科の内容論と運動の特性①」：体育における内容論についての基礎理論、運動の特性について理解する。						
第4週	「体育科の内容論と運動の特性②」：体育における内容論についての基礎理論、運動の特性について理解する。						
第5週	「体育授業における学習形態と学習過程」：体育授業における学習形態、学習過程について理解する。						
第6週	「体育授業における学習評価」：学習評価について理解し「指導と評価の一体化」を目指した授業展開について理解する。						
第7週	「体育におけるカリキュラム編成と授業づくり」：カリキュラムの基本的な考えについて理解し授業づくりについて理解する。						
第8週	「体育の授業・教材」－「体づくり運動」「器械運動系」「陸上運動系」						
第9週	「体育の授業・教材」－「水泳系」「ボール運動系」						
第10週	「体育の授業・教材」－「表現運動系」「保健」						
第11週	「模擬授業演習①」：模擬授業を実際に行い、授業観察を行う。						
第12週	「模擬授業演習②」：模擬授業を実際に行い、授業観察を行う。						
第13週	「模擬授業演習③」：模擬授業を実際に行い、授業観察を行う。						
第14週	「模擬授業演習④」：模擬授業を実際に行い、授業観察を行う。						
第15週	「まとめ」：これまで学んできたことを基に、議論を行う。						
第16週							
備考	<p>授業計画の各週の授業内容はあくまで予定であり、多少の変更が出る場合があります。</p> <p>学生へのイニシアチブを高め、主体的に授業に取り組むことでの学習を高めることに役立ちます。受講生に対しては、知識の伝達ではなく、対話を繰り返しながら体育科の授業目標に即した学習指導要領に基づいた授業実践を学ぶ機会を多く提供し、授業づくりへの基盤を構築していく。なお講義の内容に関しては学習指導要領に示された内容との関連で行っていく。</p> <p>※なお模擬授業における指導案作成は事前指導を行うことがあります。</p>						